HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	大学院演習 : 農村市街地の研究
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1955
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77313
Type	manuscript
File Information	K009_0130.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

67

NOTEBOOK
HIGH CLASS

大学院演習

昭和三十年度

農村市街地の研究

市街地研究事項

一、市街地の呼称の意味　市街地上限と下限

市街地の人口規模、

一、市街地に於ける職業的生活と

非職業的生活

一、市街地の住業、人口

一、市街地の機関

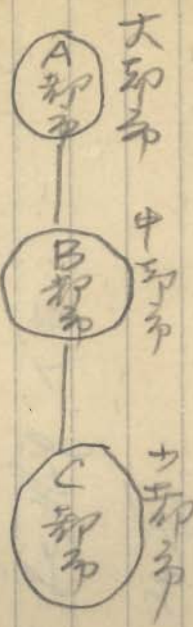
一、交通の機関と独立の機関

一、交通機関としての意義

一、各種機関と（関与）人口規模

一、都市的規模と平行する機関

一、都市に必須と思はれる機関



Bは上級にも下級にも機関に於いて交流するが、Bの人は（大都市）Bに於ける時に上級のAに於いて隣接するか、Cには行かない。

Bの機関はCの機関に支配的であると共にBの内の人に対してサービスする。寧ろBの機関はBの人々にはサービスするのが第一義的な存在理由で、Cの機関に関係するのは余力による。又余力によってCを含むB傘下の集落外の人々にサービスする。

機関の
市街地への関係する上級都市機関
市街地の機関の関係する下級
集落外の人に
市街地の上級に対する関係と下級に対する関係の相異
上級に対しては機関同志が
下級に対しては人が
—
上級に対しては機関同志及び人が上級の機関へ
下級に対しては機関が人へ
即ち下級に対しては機関同志がない。下級には機関がないからである。ここが中心都市である。市街地は上は

市街地研究の意義

一、市街地によって（一の研究）都市の本来的意義（細胞）を知る事が出来る。都市の萌芽、都市の発生、発展の過程を知る事が出来る。

市街地を問題にするは之の為の事。

二、市街地人口は全人口中可成り大きな比率を占めて居る故、市街地人口の研究は当の為にても~~重要~~。看過出来ない。

経済機関が存し関係し合って居る。然し其の~~発達~~すれば経済機関が（発達し）一つ、又は二つ機関が或る場合（其の）は之れを都市とは呼ばぬ。或る程度機関が集まった時は之れを都市と呼ぶ。或る程度機関が集まった時都市と呼ぶ時の或る（其の）程度とは如何なる程度か。幾多くの機関体が集まった時であるのか。

（最下層機関の要る聚落についての）

〈市街地の概念地区

市街地の救護や機関（其これある）地の数、（其の人口）

の如何に拘らず、其の傘下に直接（下部機関など）

農民、を（に関係し）あまねく、農家家のサービスセ

ンターとなって「介」聚落を蔽ってゐる。

即ちこれ相当する機関は変転する

上級の機関はもって「介」より下級の

機関はもって成立する。之これ左右する

機関は最下層の機関（下部）は

（国民生活交流の機関として

最下級の交流結節の機関即ち

（現に北海道下の道全における市街地は

最下層の殆ど一部機関のある聚落では

なく、介一般上級の機関のあるところに

あると見える（られる。）以上

けれども最下級機関のあるところ即ち前者の

最も救護の要ある聚落を特に（取り上げ）必要がある。

市街地調査項目

一、人口、~~[illegible]~~、住居数世帯数

二、職業、

一農業、（従事員、其の他、僧侶宗教員）

二非農業、（世帯数、人頭数）

三、機関の種類

a、行政的、役場、組合、統計事務所

b、経済的、商業、会社

c、警察的、派出所

d、教育的、学校、

e、其他、工業、寺院

四、機関の関係範域

管轄区域、商圏、学区、利用距離、[illegible]

市街地住民の上級都市に對する付け
はたらき及不可避的関係は何か

市街地住民の市街地內で生活を
充足して居る程度、他（上級か下級か）に
依存して居る程度か
市街地外の住民の市街地によって
生活を充足して居る程度

五　機関の變遷
各機関の発生年月
その順位と、人口數との相関

六　機関の上級依存
上級機関の増加と連絡
予想。最下級の機関はどうか。

七　市街地住民の上級都市利用度の調査、
住民數人につきそれぞれ個別調査

八　市街地の機関を利用する人の數
全農民數と市街地利用住民
數との比率

九　農民が利用するサービス機関
の中最下層部のものは
どれどれか。これは農民の
側より調査
又農民が直接需要して居る範囲
作下